



R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2010～2011 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「心をつくし、力を合わせて」

◆会長 清水 幸平 ◆幹事 大保木 正博 ◆会報委員長 今井 俊治 ◆会報担当 富士井 忠男

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 860 回	48 名	47 名	39 名	—	82.98%
前々回 858 回	48 名	47 名	40 名	3 名	91.49%

<点 鐘> 会長 清水 幸平
<ソング> 我等の生業

<会長の時間> 会長 清水 幸平



「白鵬がついに双葉山の全勝記録を塗り替え 70 連勝を成し遂げました」と、本日お話できると思ったのですが、残念ながら稀勢の里に敗れてしまいました。ほっと胸をなでおろしたような、また少し残念なような気持ちです。しかしながら先週は、J リーグでグランパスが優勝しました。J リーグ開幕から 18 年目で悲願の初優勝です。これまでに天皇杯は 2 度優勝していますが、リーグ戦では初めての優勝です。

「オリジナルテン」と呼ばれるチームの中では、グランパスだけがリーグ無冠でした。「負けキャラ」「万年中位」「赤いお荷物」と散々いわれたこともありましたが。トヨタ自動車をスポンサーに持ち、練習や試合環境には恵まれていただけに、風当たりも強かったでしょう。

サッカーは、まず監督で決まるといわれるそうです。今年の優勝はやはりストイコビッチの力によるところが大きいです。監督はネバーギブアップの信条がにじむ激しい気性の持ち主です。「瞬間湯沸かし器」と呼ばれ、怒りが沸点に達するとオーバーアクションを交えて叫びます。監督の理想は「美しいパスサッカー」です。今年も理想と試合結果との両立を図ってきました。しかし今は「スタイルは関係ない。勝利こそ重要」という姿勢に変わり、「タイトルを取りに行く」という意気込みでした。選手も関根王らの加入によりチームの体質も変わりました。1 点差の白星が 14 もあります。チームは勝負強い体質になっ

たようです。

グランパスは 6 月に古川に来ました。11 日間の夏合宿です。その頃グランパスは苦しい状況にありました。そこで夏合宿では「タイトルを取る」という目標をもう一度確認し、チームを一から作り直したということです。ハードに走りこみ、チームに組織力を植え付けたようです。リーグ後半戦は、1 位をキープし勝ち点を積み上げて行き、ついに優勝したのです。飛騨での合宿が優勝につながったとすれば嬉しい話です。

今後のグランパスの活躍と、サッカーおよび J リーグの隆盛を願っています。

11 月 22 日（日本時間 11 月 23 日）はケネディ大統領の暗殺された日です。1963 年史上初の衛星中継の試験が始まるということで朝早くからテレビを見ていました。宇宙開発計画を強力に推し進めてきた大統領自らが、日本国民に向けてメッセージを送る予定でした。

衛星によるリアルタイムでの国際ニュースがあたりまえの時代だが。その宇宙中継の成功の第一報がケネディ大統領暗殺という世紀の大事件でした。

<本日のプログラム>

社会奉仕委員会

永家 委員長

皆さんこんにちは、本日は社会奉仕委員会の担当例会です。本日はこの後、国府町にある「吉城山ゆり園」に会場を移動して桐山園長先生にお話を頂き、その後授産施設を見ていただきます。授産施設で作ったものも販売しておりますのでご購入もよろしくお祈いします





吉城山ゆり園は、社会福祉法人飛騨慈光会の中の知的障がい者授産施設です。

主な授産製品として花苗・賞状額・フォトフレーム・陶芸品・パン等を作っています。



吉城山ゆり園の桐山一彦園長です。

吉城山ゆり園の開園は平成3年4月1日で今年で20年になります。

施設の目的は18歳以上の知的障がい者に対して職業訓練を行い就業支援を行い自活させることを目的としています。現在約90人の人達が働いており平均賃金が7,500円/月で最高が20,000円/月です。(岐阜県の平均は10,000円/月) そのお金で月に一度、休日を利用して高山市街に行き買い物等を楽しんでいます。



桐山園長のお話を真剣に聞くメンバー。

障がいというハンディキャップを持つ人たちの中でも、特に知的障がい者の社会参加は大変厳しい状況です。そして親たちも「自分達が亡きあとこの子は生きていけるのか…」という不安を持っています。現在「手をつなぐ親の会」「手をつなぐ育成会」という形で各地方自治体単位で障がい児の支援を行う団体を作っています。

岐阜県には「社団法人岐阜県手をつなぐ育成会」がありません。

<ニコニコBOX>

母の葬儀には、お忙しい中お参り頂きありがとうございました。まだまだ悲しみは癒えませんが家族で助け合い頑張りたいと思います。

平林 英一

知的障がい者・精神障がい者の自立や社会参加も大変ですが、いま私たちの周りで増えている認知症患者の問題も見逃せません。今後、福祉政策の上で民間を巻き込んだ小規模多機能の施設をもっと増やし、入所者・利用者さんに対して制限をするのではなく目標や生きがいを与える施設が望まれるのでは…と思いました。

原田正則さん(35)の陶芸作品などを展示するギャラリー「桜創(さくらそう)」が同施設内にオープンした。原田さんは絵画や陶芸の優れた作品を多数作り、園内で「飛騨の山下清」と形容されるほどの腕前。施設では「大勢の人に作品を見てもらいたい」と、非凡な才能に優しいまなざしを注いでいました。



ギャラリーは作業棟の中に設けられ、約20平方メートルの広さ。陶芸の工房と電気窯も備えている。桜創は宇津江四十八滝近くの山野草花園に群生するサクラソウ科のクリソウと、創造の意味を込めて名付けたといいます。展示しているのは高さ3~10センチ前後のコミカルな表情の陶芸人形約300点。「金太郎とコイのぼり」「開運七福神」「お雛さま」や、「恐竜キッズ」シリーズ、日本昔話シリーズと題した「かちかち山」「浦島太郎」など。ほかに高山市の消防出初め式や、節分の光景を描いた絵のポストカードなども展示しています。

原田さんは幼いころから自閉症で、知的障がいのハンディキャップを持つ。県立飛騨養護学校(現県立飛騨特別支援学校)の小・中・高等部を卒業後、93年から同施設にバスで通っています。子どものころから絵に興味を持ち、90年に本格的に水彩画を始めると、おとぎの国に誘うような雰囲気の詳細で美しい絵を描きました。



会員の皆さま、たくさんお買い上げ頂きありがとうございました。

ニコニコと楽しい事ばかりじゃありませんが、ニコニコへ。
田中 雅昭